

豆の町（ビーントアウン）から

こんにちは（第4回）

会員家族 住井 円香

■ 無人の椅子が意味するもの

日本でも報道されてご存じの方も多いと思いますが、アメリカ各地の大学でイスラエル・パレスチナ情勢に関連する抗議活動やデモが活発に繰り広げられています。野営したデモ隊が学内敷地の一部を占拠し、先日警察が突入したコロナビア大学などに比べると小さい規模ですが、私に通っているポストン大学でも、これらに関する抗議活動が行われています。

4月、大学の中心部にある教会前の広場に、突如多数の椅子が並べられました。これらの椅子を設置したのは親パレスチナ派の学生団体だといわれています。椅子の数で、大学の敷地にとっても収容できないくらい、犠牲者が多くなっていることを表現した活動だった模様です。

椅子が並べられたその日には、学内のある親パレスチナ派の団体は、昨年10月7日のイスラム原理主義組

織ハマスによるイスラエル攻撃開始から4月のその時点までのパレスチナ人犠牲者全員分の椅子を教会前の広場に並べるには、その敷地8倍分に相当する面積が必要だという投稿をSNSにあげていました。

一方で、昨年末くらいまでは目立っていたイスラエルを支持するグループなどによるデモは、あまり見かけなくなつたように感じます。SNSで見かける同級生の主張も、パレスチナ寄りのものはたびたび投稿されるものの、表立ってイスラエルへの支持を表明する学生を目にすることは少なくなつたように思います。

アメリカでは若い世代を中心に従来のイスラエル支持の姿勢から変わりつつあるといわれていますが、実際に大学生活を送っていると学生たちの間でこうした変化が起こっているかもしれないことを感じることも増えてきています。

■ 大学を騒がせるもう一つの抗議活動

ただ、もしかしたらポストン大学では、親パレスチナ派によるデモ以上に学内で目立っているのは、大学院生たちによるストライキかもしれ

ません。

3月下旬から現在まで、学部生の授業で教授の補佐を務めるティーチングアシスタント（以下TA）として働く大学院生たちによるストライキが決行されています。先述した教会前の広場のほか、歴史が古く世界中のランナーから人気のあるポストンマラソンの日には、マラソンの沿道近くでも抗議活動をしている様子が見られました。

私の大学では、TAの役割は試験や課題の採点のみならず、週に1度行われるデイスカッションやラボと呼ばれる大規模な講義の補足説明・解説を行う少人数の授業を教えるなど、その内容は多岐にわたります。100人以上が受講する講義では、教授に個人的に質問することが難しかったりするため、年齢も比較的近く、親身になって教えてくれるTAたちは、学部生にとつて、救世主のような存在でもあります。ただ、学生としての本分も果たしつつ、業務の負担がとて大きいのに、ポストンの生活費の高騰にTAの賃金が追いついていないことが、ストライキ参加者たちの主張です。実際、大学院生は賃貸物件で暮ら

す割合も多く、中には家族を養っている人もいて、現在の賃金では生活が苦しいという嘆きは少なくないようです。

一方、大学側は、TAなど大学で働きながら学ぶ大学院生たちによって構成される労働組合に対して批判的な態度を取り続けていたものの、5月半ばに、対応策として全ての博士課程の学生が大学からの給付金を得られるようにする計画を公表しました。

しかし、長期化したこれらの抗議活動は、普段こうしたTAたちに支えられてきた学部生にも当然ながら影響を及ぼしました。大学側はほとんどのTAは業務を続けていると聞いていましたが、私が今学期受講した専攻の経済学の授業2クラスは、どちらのTAもストライキに参加しました。教授が一部TAの業務を肩代わりしましたが、試験前にはストライキが終わってTAによる解説が行われることを期待していた学生たちからは、大学の対応が後手に回り、TAの復帰がかなわなかったことに落胆の声も上がりました。もちろん私もその一人です。

■ボストンの学生の娯楽事情

アメリカでは物価の値上がりが深刻で、気軽にレストランやカフェに立ち寄ったり、頻繁に買い物に出かけることが難しくなっています。また、日本と比較すると、カラオケやボウリング場のような安価に楽しめる娯楽施設の数も少ないです。

ただ、大学生が楽しめる場所が全くないわけではありません。ボストン大学は、いわゆるパーティー大学と呼ばれるような人脈づくりに熱心な学風の大学よりもナイトライフが充実していないとよく言われていますが、パーティーやクラブに出かける学生もいます。

また、ボストン周辺的美術館やオーケストラなどには、特定の大学の学生・教職員を対象にチケットが無料であったり、割引している施設もあります。例えば、日本の美術品コレクションで世界的に有名なボストン美術館は、ボストン大学をはじめ、美術館側の指定した大学の学生証を提示すれば、無料で入場することができます。2月に亡くなった小澤征爾氏が長年音楽監督を務めたボストン交響楽団も、大学生は最初に

の後の公演は無料で鑑賞できるようになります。

5月初め、試験期間のために授業がなかった日に、私も友人と一緒にボストン交響楽団によるロミオとジュリエットをテーマにしたコンサートに行ってきました。オーケストラの演奏とオペラ歌手、それから合唱団による舞台は、英語の字幕付きで、フランス語で歌われていました。一流の音楽家たちが奏でる音を聴くことができ、貴重な機会だったので、あまりに美しく心地よい演奏と、ほとんどフランス語の歌詞では耳を傾けるだけではわからなかったこともあり、試験勉強で睡眠不足が続いていた友人も私も、途中で眠くなってしまうのが非常に残念でした。はっと覚醒し、気が付けば、舞台上のロミオもジュリエットも亡くなっていました。

本来学生にはなかなか敷居が高い場所に、気軽に行くことができるまたとない機会なので、大学に少しでも訪れて教養を培ってほしい、とコンサートで寝落ちしかけた今回の反省を込めて思っています。

30^{ドル}を支払って会員登録すれば、そ